



築港完成時の留萌港



江戸時代末期のルルモッペ



留萌市開基110年・市制施行40年・留萌港開港50年  
 いま、21世紀への第四楽章が始まった。  
 先人の流した汗は熱く燃えていた。

記念特集号



美しい日本海と、目にしみる緑の山並みに囲まれた留萌市が、明治10年、戸長役場を設置してから110年、昭和11年留萌港が、国際貿易港の指定を受けてから50年、また昭和22年市制

を施行してから40年という、ほんとうに意義深い年を迎えましたことを心からお喜び申し上げます。  
 顧みますと、早くから未開のこの地に足を踏み入れ、きびしい自然の脅威や恵まれぬ環境とたたかい、いばらの道を切り開いた先人の血のにじむような労苦に思いをはせる時、その偉業の大きさにあらためて感謝と敬意を表するとともに、先人の偉業を継承し、さらに新しい時代に向けて飛躍発展せしむることこそ、我々に課せられた責務と深く肝に銘じ、市民憲章に基づいた市民参加による理想郷の留萌づくりの輪を広げてまいります。  
 ここに重ねて市民の皆さまの一層のご協力をお願い申し上げます。

留萌は、開基から今日まで明治、大正、昭和と三代の年号を経て、110年という意義ある年を迎えるとともに、留萌港開港50年、市制施行40年という大きな節目の年を迎えました。  
 そこで、今日の留萌の基礎を築きあげてきた先人の足跡を顧みるとともに、次の留萌建設の糧となるよう、足早にふり返ってみることにしました。  
 21世紀への第四楽章が、大きく鳴り響くことを祈りなす。

(開基元年)

- 《明治10年1月》 戸長役場を川北に設置/この年の市の開基と定める/郡戸長は八谷理兵衛・副戸長に堀内喜八就任。
- ▽4月開拓測候所が設置される/郡戸長に本間秀蔵が就任/このときの人口六百六十七人。
  - ▽12年・7月郡庁長役場を留萌外2村戸長役場と改称する。
  - ▽13年・3月留萌外5郡役所(留萌・天塩・中川・上川・増毛・苦前の各郡)を設置、初代郡長に柳平太郎就任/4月留萌外2村戸長に森野重次郎就任/9月留萌小学校(留萌学校)が開校する。
  - ▽14年・7月留萌外5郡増毛に移り、増毛外5郡役所となる。
  - ▽15年・4月札幌病院留萌出張所開張され無医村となる/亀本初太郎が私設火防組を作る。
  - ▽16年・8月留萌外二村戸長に島影嘉が就任する/9月札幌県令に市街地計画書(現都市計画の始まり)を提出する。
  - ▽17年・6月三泊小学校(三泊学校)が開校する/11月礼受小学校(礼受学校)が開校する。
  - ▽18年・大和田付近で石炭採掘の試み/当時の郡戸数七百七十五戸、人口八百九十二人。
  - ▽19年・9月留萌外二村戸長に小川謙輔が就任/留萌水産組合設立。
  - ▽20年・4月留萌外二村戸長に佐藤武次が就任する/増毛警察署留萌分署(留萌警察署)を設置/8月英人C・S・メック港湾調査のため来村する/10月村有志が電信架設を道庁に請願する。
  - ▽21年・2月留萌外二村戸長に伊山徳次郎が就任する/新市街地計画案を道庁官に陳情する。
  - ▽22年・留萌小学校新築/7月定期航路船、初めて入港(樺戸丸・飛竜丸)。
  - ▽23年・広井勇・港湾調査のため来村する/新市街地さく組合設立。
  - ▽24年・5月留萌外二村戸長に磯松年太郎が就任する/12月帝國議會に留萌港築港を請願/留萌郡戸数二百九十二戸人口千四百四人。
  - ▽25年・9月戸長役場が川北から新市街地(本町一丁目)に移転、当時の役場財政九百七円。
  - ▽26年・留萌競馬場設立/郡戸数四百戸人口千四百一十一人。
  - ▽27年・4月太刀川兵助が駅通取り扱いになる。
  - ▽28年・2月簡易小学校を尋常小学校に変更/11月尋常小学校に高等科を併置し、尋常高等小学校となる/12月高等小学校が旧市街(大町)から留萌通り(現電通庁舎)に新築、移転する。
  - ▽29年・4月留萌外二村戸長に安達忠助が就任する/5月藤山に北陸地方から第一回の団体入植が始まる。
  - ▽30年・8月築港調査のため井上馨が来村する/増毛外五郡を増毛支庁と改称/深川・留萌間鉄道線測量に着手。
  - ▽31年・9月潮静小学校開校する/12月幌糠・峠下地区に入植。
  - ▽32年・3月留萌外二村戸長に三田村千瓢が就任する/11月幌糠小学校が開校する/郡戸数五百九十二戸、人口二千七百八十七人。